

2024年1月14日 No.3702

先週の講壇から

「春にして君を待つ、

ルカによる福音書 第2章 25節～38節

聖句「この人は正しい人で信仰があつく、イスラエルの慰められるのを待ち望み、聖霊が彼にとどまっていた。」(2:25)

1. 《アルタバン》 ヴァン・ダイクの童話『もう一人の博士』の主人公、アルタバンは旅の行く先々で困窮する人たちを助けるために、他の博士たちとの待ち合わせに遅れ、結局30年以上もキリストに相見ゆることが出来ません。十字架に磔けにされる主を助けようと刑場へ急ぐ道中、地震で落ちた瓦に当たって死んでしまうのです。しかし、主は瀕死のアルタバンを天国に導かれます。
2. 《探し求める》 ヴァン・ダイクは20世紀初頭に生きた牧師です。唯物主義や合理主義、科学万能主義が急速に浸透し、伝統的な価値観や社会秩序が揺らいでいた時代でした。その反動として、聖書の言葉は一言一句、科学的にも歴史的にも真実であるとする逐語霊感説や原理主義が勃興して、穏やかな信仰が失われつつありました。そんな中、彼は「聖書の文字」ではなく「聖書の心」を訴えようとしたのです。アルタバンは異教徒ですが、キリストを探し求めます。結局、キリストに出会えぬまま、福音に触れることすら無いままに息を引き取ります。けれども彼は、何度も何度も、困窮する人たちを通してキリストに出会っていたのです。キリストを求める生き方が、もう既に彼をキリストに引き合わせていたのです。
3. 《よく生きる》 老シメオンは生涯、神の救いを待ち望んでいました。遂に幼子イエスに出会って「今こそ、安らかに世を去ることが出来ます」と歌うのです。よく生きた人、懸命に生きた人が、安らかに世を去ることが出来るのです。女預言者アンナは84歳でしたが、まだまだ意気盛んで、キリストとの出会いを人々に語り聞かせます。それにしても、どうして非力な赤ん坊にメシアを見出すことが出来たのでしょうか。それは2人共、キリストを探し求め続けていたからです。死に際して、私たちは、他の誰かのように成れなかったことを、神さまから責められることは決してありません。責められるとすれば、むしろ、自分自身を受け容れ、愛さなかったことでしょう。人生は「急がば回れ」です。目標から遠く離れてしまったように思われても、一番の宝を手に入れているかも知れません。

朝日研一朗牧師